

平成30年度 「学力向上のための学校改善プラン」

学校名

苫小牧市立清水小学校

校長名	松井操人	教頭名	長谷川英昭	教務主任	下江後洋介	研究部長	安田美加子
教職員数	28	通常学級数	9	特別支援学級数	知的1, 自閉情緒2	児童数	233
						PTA数	184
						HPアドレス	www.simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp

本年度の学力向上のための学校改善プラン「A9で繋がるチーム開成校区」をスローガンに、全市で統一して取り組む「苫小牧市学校教育力向上マスタープラン」を軸にして「苫小牧市学力向上アクションプラン」を推進し、共通取組事項を踏まえた全ての教科における授業改善を行う。また、下支えする「清水スタンダード」を「小中のスタンダード」に向けて取組をすすめていく。

1	平成29年度末の状況	中間検証時の状況
	<p>国語や算数の授業で「課題」や「まとめ」を板書することができ、算数では「習得」と「活用」をバランスよく位置づける授業づくりを目指し、全校体制で取り組むことができた。その結果、教えなければならないことを教え、基礎的・基本的な知識・技能の定着が少しずつ図られるようになった。ただ、他の教科に反映させるまでには至らなかった。平成29年度の全国学力・学習状況調査においては、平均正答率で国語Aは全国平均より0.2%上まわり、国語Bは0.5%上回る結果であった。また、算数Aでは全国平均より0.6%下回り、算数Bでは0.1%下回る結果であった。苫小牧市統一学力検査の得点率においては、4年国語は6%下回り、算数は9.1%下回り、5年国語は1.6%上回り、算数は3.4%上回り、6年国語は1.7%下回り、算数は4%下回る結果となった。領域別では、国語の「書くこと」、算数の「数と計算」「数量関係」で課題が見られた。また相変わらず自分の考えを説明する力や記述する力に課題があり、改善することができなかった。</p>	<p>全国学テの平均点は、国語Aは2.3ポイント上回り、国語Bは4.3ポイント上回った。算数Aは2.5ポイント上回り、算数Bは1.5ポイント上回った。理科は2.7ポイント上回った。苫小牧市統一学力検査の偏差値は、4年国語45.6で、4.4ポイント下回り、算数は44.1で、5.9ポイント下回った。5年国語は45.6で、4.4ポイント下回り、算数は45.3で、4.7ポイント下回った。6年国語は51.9で、1.9ポイント上回り、算数は51.9で1.9ポイント上回った。今年度は全国学テは全教科で上回っているが、次年度に向けては過去問題やサンプル問題に早めに取り組みしていく必要がある。統一学テ結果から各学年ごとの課題が分かり、4年国語は「言語事項・読むこと」、算数は「数と計算・量と測定・図形」、5年国語は「言語事項」、算数は「数と計算」に課題が見られた。今後、課題が見られる領域を中心に取組を進めていく。清水スタンダードは、課題やまとめの板書を他の教科にも応用できているが、現在小中スタンダードの完成を待っている状態である。</p>

2	平成30年度	年度末検証
	<p>(1) 平成30年度全国学力・学習状況調査では、国語・算数・理科ともに全国平均を0.3%上まわる結果を目指す。 (2) 苫小牧市統一学力調査では、全教科全領域において全国平均を0.3%上まわる結果を目指す。 (3) チャレンジテストにおいて、75%以上の正答率を目指す。 (4) 宿題や家庭学習を行った(A+Bと答える)と言える割合を80%以上を目指す。 (5) LITによる授業公開に、1人1回以上参観する。</p>	<p>プランの変更 (有) . 無 進捗状況の評価 (A) B C D</p> <p>考察(到達目標の見直しを含む) 全国学テ及び6年の統一学テは、目標を上回ることができた。統一学テは、4.5年(2年)に課題が見られたので、苦手問題に取り組ませていく。チャレンジテストは1年と4年社会のみが目標を上回ることができたが、全道の平均正答率もかなり低く、それと比べるとそれほど大きな課題とは言えないので、到達目標を75%以上から全道平均以上と見直す。宿題や家庭学習については児童アンケートでA+Bで83.1%となり達成できたので、次年度はA+Bで85%以上という到達目標とする。LITの授業参観は、年間で6名のみにとどまったので、次年度は計画的に参加できる体制づくりに努める。</p>

3 学力向上の具体的な到達目標を達成するための今後の具体的な取組(項目別)

	主な取組内容	取組内容の評価指標	1学期			2学期			3学期			年度末検証				
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	評価	次年度に向けた方策等
指導方法・指導体制を含めた授業改善	算数科において習熟度別少人数指導やTT指導など、指導方法の工夫改善	3年以上で、TT指導100時間・習熟度別少人数指導125時間以上確保する。(3, 4, 6年は単学級のため、TT指導50時間となり、1, 2年もTT指導50時間実施)。	TT指導・習熟度別指導の授業実践												A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は習熟度別少人数指導の時間を増やし、年間140時間(TT35時間)としてきめ細かな指導に当たる。 ・共通取組事項は、88.9%が達成できたとなり、次年度も意識した授業改善にのぞむ。 ・言語活動の充実については、84.6%が達成できたとなったが、児童の意見が分からないので、児童アンケートに入れる。 ・授業改善と言語活動の充実の数値目標を今年度の結果を受け、90%以上に変更する。
	共通取組事項(本時の目標の焦点化・本時のゴールのイメージ化・ねらいとまとめの視覚化)をふまえた授業改善	すべての学級で年1回以上の研究授業(ブロック授業含む)を行う。すべての教科で焦点化した目標を立てた授業70%以上。すべての教科で視覚化した「ねらい」と「まとめ」を板書した授業70%以上。	全体及びブロックごとの研究推進													
	授業で自分の思いや考えを説明したり発表したりする場の工夫(言語活動の充実)	ペア学習やグループ学習など、授業で自分の考えや思いを説明したり発表したりする。(学校評価でA・Bと答える割合を70%以上)	中間検証													
学習内容の定着および基礎学力の向上	4, 5年で、全国学テの過去問題の実施	過去問題の全国・全道平均同等の得点。無答率を5%以下とする。	中間検証												A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・5年の全国学テの過去問題の実施がこれからは検証できないので、もう少し早い時期に実施してその後に活かすように取り組む。 ・統一学テの無答率の目標達成できなかったのが、4年国・算、5年国語だったので、あきらめずに取り組む指導が必要。 ・チャレンジテストの無答率の目標達成できなかったのが、2, 3, 4年の算数だったので、最後まで取り組ませる指導が必要。また、到達目標を正答率75%以上から全道平均以上に変更する。 ・ミニテストや単元テストの到達目標正答率80%についてのアンケート項目を入れる。
	全国学テおよび苫小牧市統一学力テストの実施および分析	全教科全領域で全国平均を0.3%上回る。無答率を5%以下とする。分析結果から課題解決のために、全校としての取組を実施。	中間検証													
	チャレンジテストの継続的な実施および分析	チャレンジテストの正答率75%以上。無答率を5%以下とする。	年度末検証													
学習習慣の定着	漢字の習得、九九や四則計算などの習得	ミニテストや単元テストで正答率80%以上。	年度末検証												A B C D	<ul style="list-style-type: none"> ・清水スタンダードの徹底は図れている(達成率100%)。また、小中共同の「学習のきまり」を制定したので、次年度統一して取り組む。 ・家庭学習は、児童は83.1%、保護者は78.9%となっている。学習時間のアンケートでは、目標達成が63%だった。高学年は「塾」など校外の学習もあるので、それも家庭学習時間と見なす。また、家庭学習の協力について、様々な機会を通じて呼びかけていく。 ・読書活動については、12月末現在で、約9500冊の貸出数があり、1人当たり41冊の貸出となっている。次年度も継続した取組を行う。ただ、うちとく(家読)が進まないで、「読書カード」等の活用を図る。
	清水スタンダードの徹底を徹底	全教員が同じスタンスで児童の指導にあたる。課題とまとめが書かれた板書・ノート指導80%以上。	年度末検証													
	「家庭学習の手引き」を活用した家庭と連携した学習の習慣化	家庭学習時間「学年×10分+10分」の実施80%以上 宿題や家庭学習を行ったと言える割合80%以上	年度末検証													
日常的な読書の充実および読書習慣の定着	学校図書館の貸出冊数、1人当たり前年度+5冊以上、1年生は昨年度の1年生の貸出冊数の平均以上家読(うちとく)10分以上	年度末に昨年度との比較・検証												A B C D		
		年度末に昨年度との比較・検証														

